

# あすを拓く

気象情報会社のウェザーニューズが千葉大学など

と協力し人工衛星の打ち上げを目指している。流水の動きや二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)濃度を観測する計画で、ウェザー社は航行が難しい北極海航路の開拓などに役立てる考えだ。千葉大は保有する観測技術をビジネスにつなげるチャンスとみている。打ち上げが成功すれば県内でも有数の産学の連携事業となりそうだ。

天候観測などウェザー社の本社機能が集まるグローバルセンター(千葉市)では、現在開発中の地球観測衛星「WNI衛星(仮称)」の実物大模型を展示している。大きさは二十五センチ四方のアルミ

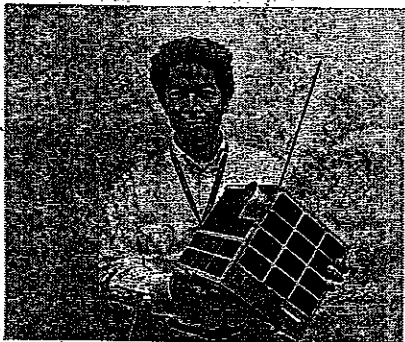
## 産学連携 舞台は宇宙

合金製の立方体で、カメラ極海の撮影だ。温暖化の影響で北極海の氷が減少し、今まで船が航行できなかつた日本と欧州、北米と欧州を結ぶ商業航路の可能性が浮上した。通常、日本から欧州まで航行するにはスエズ運河か

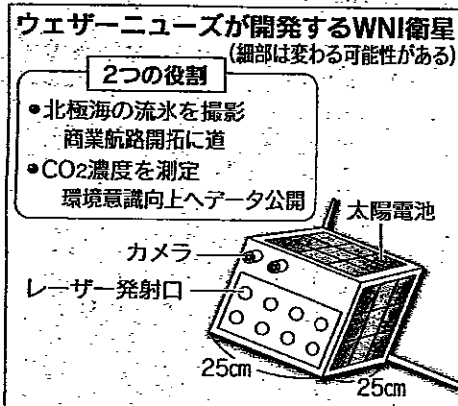
### 「重さ50kg」の夢

重さはたった五キログラム。片手で持てるほど小さく軽い。開発責任者の山本雅也氏は「この小さな衛星が我々のビジネスを大きく飛躍させてくれる」と期待を込める。ウェザー社の目的の一つは北極海航路を経由するが、北極海航路を使えば燃料費や航行時間は三分の二に短縮できる。ウェザー社は衛星の画

### ウェザー社、千葉大と衛星開発



ウェザーニューズと千葉大などが開発する人工衛星の模型



## 気象観測、技術で商機

で濃度を調べる。日本各地のCO<sub>2</sub>濃度をインターネット上で一般公開し、環境保護への意識を高める狙いがある。千葉大は観測した画像やデータの処理で協力する。例えば衛星に搭載するカメラは市販のデジタルカメラと同程度の機能しかない。画像を一見しただけでは水と海、雲などの区別ができず、専門家の解析が必要となる。

立てるなど国内でも有数の技術を持つ。WNI衛星では可視光と赤外線、二種類のカメラを使い、一平方メートルで氷や雲などを判別できるように工夫する。

事業に参加する千葉大環境リモートセンシング研究センターの久世宏明教授は「千葉大が持つ技術だけを社会に還元できる大きなチャンス」と意気込む。

打ち上げに成功すれば、ウェザー社にとって初の自前の衛星となる。希望を載せた衛星は二〇一〇年度―一一年度、海外のロケットで打ち上げられる予定だ。

山本氏は「自社の衛星を持っては事業の幅が広がる」という。衛星一台あたりのコストも機能を絞ることで一億―二億円に圧縮。五台程度の衛星を打ち上げて観測精度を高め、早期の事業化を狙う。

ウェザー社と千葉大の連携事業は、産学連携の打ち上げに成功した。開発コストもウェザー社のように機能を絞れば一億程度でも可能となった。宇宙開発の中心である米国や欧州と競争が今後本格化しそうだ。

国内の宇宙関連事業は拡大傾向にある。国の宇宙開発の方針を定めた宇宙基本法が二〇〇八年八月に施行し、三菱重工が〇九年一月にロケット打ち上げを海外から受注

宇宙関連事業が拡大した。産業廃棄物の監視など衛星の民間利用の促進を盛り込んだ〇九年度宇宙関連予算は〇八年度比六割増の約三千四百億円に増える。

宇宙関連事業が拡大した。産業廃棄物の監視など衛星の民間利用の促進を盛り込んだ〇九年度宇宙関連予算は〇八年度比六割増の約三千四百億円に増える。

宇宙関連事業が拡大した。産業廃棄物の監視など衛星の民間利用の促進を盛り込んだ〇九年度宇宙関連予算は〇八年度比六割増の約三千四百億円に増える。

宇宙関連事業が拡大した。産業廃棄物の監視など衛星の民間利用の促進を盛り込んだ〇九年度宇宙関連予算は〇八年度比六割増の約三千四百億円に増える。

宇宙関連事業が拡大した。産業廃棄物の監視など衛星の民間利用の促進を盛り込んだ〇九年度宇宙関連予算は〇八年度比六割増の約三千四百億円に増える。

宇宙関連事業が拡大した。産業廃棄物の監視など衛星の民間利用の促進を盛り込んだ〇九年度宇宙関連予算は〇八年度比六割増の約三千四百億円に増える。